

ケアリングの視点を組み込んだオンライン学習の実践に関する研究

—「生徒指導論」の授業の取り組みから—

長瀬 拓也

(非常勤講師)

本稿は、2021年度前期に行われた「生徒指導論」において、新型コロナウイルスの流行下における大学生の学習状況を考慮し、オンデマンドによる配信型講義においても学生のニーズや学習環境を配慮するケアリングの視点に立って行われた教育実践の効果と課題を明らかとするものである。実践後、学生からのアンケートの分析によって、講義者による一方的な情報配信であっても、レポート課題や学習者へのアナウンス、フィードバックのコメントを工夫することで、教員と学生とのコミュニケーションが保たれ、学習者の意欲向上を促し、自律的に学習に取り組むことが明らかとなった。一方で、アンケート調査から学生が双方向での交流ができるように工夫することも課題となった。

キーワード：オンライン学習，ケアリング，オンデマンドによる配信型授業

1. 問題の所在

2020年から始まった新型コロナウイルスの世界的流行の拡大によって、大学では、対面形式の講義は減少し、オンラインでの学習が幅広く展開された。テレビ電話会議システムを利用した学習以外にも、オンデマンド配信、すなわち、講義者が事前に収録し、配信する講義形式も多くで大学で実施されることになった。そうしたコロナ禍の学生の状況について、北九州市企画調整局企画課が市内の約2万人の大学生を対象とした調査(2021)によれば、大学生の心の健康状況は、「心の不調を表す5つの傾向」に分けると、「抑うつ傾向」が26.5%、「対人不安」が23.1%、「身体的訴え」が16.3%であり、「学生は、さまざまなストレスを感じている。」状況であった。また、調査では「319人(6.2%)がケアの必要な学生と考えられる」「4割前後の学生が、授業形態、課題(レポート等)、単位取得が不安と回答」「3割超の学生が、コロナ感染、外出自粛、学内友人関係が不安と回答」とあった。こうした状況は、北九州市内の学生だけの問題ではなく、どの地域、どの大学でも少なからず抱えている問題であるといえよう。

本研究の対象となる教職課程科目の「生徒指導論」の受講者の多くは、卒業後、養護教諭やソーシャルワーカーを希望する。彼女らの多くの勤務先となる学校現場では、児童生徒はコロナ禍において様々な心身の健康状況のケアを必要とし、生徒指導の観点から養護教員やソーシャルワーカーが果たす役割は大きい。

ケアとは、柏木(2020)によれば、「自他に関心と共感をもって、自他のニーズに気づき、それに応えようとする応答的活動」と定義する。その上で柏木(2021)は「子どもが学校でケアする能力を身につけられるような学校運営と学習活動の重要な要素として、すべての子どもがケアされる仕組みとカリキュラム」を提案し、ノディングス(2007)の考えを「ケアする能力は、他者からのケアを受け入れる能力、および他者にケアを与える能力の双方からなり、他者からケアされる経験を通じて育まれる」とまとめている。また、西田(2015)によれば、「〈ケアリング(caring)〉は、世話、介護、注意、気遣い、関心、配慮、心配などと訳される〈ケア(care)〉の派生語であり、看護、福祉、教育などの対人援助職分野において重要視されている概念である。」とされ、ミルトン・メイヤロフのケアリング論を背景に、「過去も現在もこれからもずっとケアし続ける」という連続性・継続性が言葉の中に含まれている」としている。さらに西田(2018)が、「看護における〈ケアリング(caring)〉という概念は、1970年代のキュアリング(curing・医学的治療)を核とした医療権力に対抗する形で1980年代の米国からその提唱が始まった。日本では1989年と1992年に開催された看護学の国際学術集会において、〈ケアリング〉に関するセミナーが設けられたことを機にそれから現在に至るまで、〈ケアリング〉は看護の中心的概念として認識され続けている。」と述べているように、看護の現場で多く用いられてい

たが、学校現場でも柏木をはじめとして用いられることが増え、宮崎（2021）は、「養護教諭養成教育におけるケアリングの具現化」として、養護実習記録簿におけるケアリング概念に焦点を当てた質的分析を行なっている。受講者にケアリングの視点や内容を伝え、看護や学校現場での応用を促す研究は多いが、内田や松崎（2021）がケアリングの場としてリカレント教育の必要性を論じたような受講者（大学生や卒業生）を対象としたケアリングに関する先行研究はまだ限られている。しかしながら、2021年以降は、ケアリングへの言及はないが、川面・今橋（2021）の報告のように新型コロナウイルス感染拡大防止の中で取り組んだオンライン学習における学生支援の研究は進んでいる。

こうしたケアリングやオンライン学習に関する先行研究を踏まえ、「生徒指導論」の中で、受講生のニーズや学習環境の配慮したケアリングの視点を組み込んだ講義方法を開発し、その効果を検証することにした。

2. 本実践の研究の目的と方法

2. 1 研究目的

オンデマンド型講義（オンライン教材を用いた遠隔授業）において、学生のケアの視点から効果や課題、改善点を明確にすることで、今後、オンデマンド型講義の運用や実践に生かすことを目的とする。

2. 2 研究方法

オンデマンド型講義（オンライン教材を用いた遠隔授業）として行った『生徒指導論』をオンデマンド講義の条件の枠組みに照らし合わせながら分析し、その効果と課題を明らかとする。

まず、オンデマンド型授業のメリット、デメリットを明らかにし、2021年前期に実施した『生徒指導論』が学生のケアを意識した授業になり得ていたかを検討する。特に、学生へのアンケートをもとに、学習者の視点に立ち、自宅にいても学習を進めるための工夫ができていたかについて、その効果と課題を明確にする。

本研究の対象となるオンデマンド型講義は、文部科学省（2020）の「オンライン教材（MOOC等）を用いた遠隔授業の例」として「スライド資料や講義形式の動画等を教材としてe-learningシステム等を準備し、学生は教室以外の場所（自宅を含む）において、PCや携帯電話からインターネットに接続し、随時又は期限が設定されている場合は当該期限内に受講。学生からの課題提出や質問の受付及び回答、学生間の意見交換等についても、インターネット等を通じて行う」に該当する形式である。

「今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議（第5回）」による資料「コロナ対応の現状、課題、今後の方向性について」によれば、オンデマンド型講義に関して抜粋すると、評価する意見として、

- ・動画を配信するオンデマンド型のオンライン授業についても、「学生が自分の好きなペースで学習でき、復習もしやすい。」と評価する大学が多かった。
- ・学びの準備的な部分はオンライン授業とし、重要な部分を対面授業にするとといった教育のポイントを絞る方向性が見えた。

といった一方、課題として、

- ・「大きな課題である」とする回答が56%と最も多かったのは「実験・実習・実技系科目への対応」であり、「課題である」を含めると、9割以上の大学が困っていた。

といった意見が挙げられている。

西垣（2021）の「遠隔授業環境における学生の学び」に関する教員アンケート結果報告」によれば、【学生の学修や学修姿勢について】【オンラインで授業を実施してみたの気づき】【本学（新大学発足後も含む）での今後のオンライン授業の活用について】【授業実施上の工夫について】の4つの項目について、教員に自由記述を求めた所、オンライン授業ゆえのデメリットとして、「演習や実験は対面が良い（3件）」、「学生の理解度等の把握とコミュニケーションが十分にできない（15件）」、「不正行為やそれに準じる行為が防ぎにくい（7件）」、「意欲にも成績にも学生による個人差が拡大する（4件）」の4つに大別できた。特に多かったのは教員と学生、及び学生同士のコミュニケーションに関連する指摘で、「理解度はともかく意欲が把握できない」、「臨場感が出せず、伝えたいことが伝わらない」、「教員のフィードバックを見ていない」「学生同士のコミュニケーションができない。教員とも情報伝達以外のことはできない」といった回答があった。また、コミュニケーション不足が学生の学習意欲減退にもつながっているという指摘もあった」とし、1回生の大変さや学生の疲労を指摘する回答もあった。

こうした報告を参考にすると、オンデマンド型講義を実施する上で、以下の点を考慮する必要がある。

- ①オンデマンド講義のメリット、デメリットを明確にする。
- ②ケアリングの視点に立ち、自宅での受講を想定し、一人で学習をする中で安心して学習に取り組めるようにする。
- ③オンデマンド講義にすると、学習者の個人差はさらに拡大するため、学生とのコミュニケーション

を取る工夫を図る。

そこで、この3点をオンデマンド講義の条件の枠組みとして、学生のケアする視点に立ちながら『生徒指導論』の講義におけるオンデマンド配信のオンライン学習の効果と課題を検討する。

2. 3 「生徒指導論」の授業設計について

2. 3. 1 オンデマンド型講義実施の背景

当時（2021年3月）の段階では、Zoomなどによる「テレビ会議システムを用いた遠隔授業（文部科学省2020）」については手続きがかかり、実施は難しいと判断した。大学からのアドバイスも受け、オンデマンド型講義「オンライン教材（MOOC等）を用いた遠隔授業」（文部科学省2020）を採用し、実施の過程で対面授業やテレビ会議システムによる遠隔授業も導入することにした。

2. 3. 2 オンライン学習におけるオンデマンド型講義の枠組み

「生徒指導論」の実践を行うにあたり、長瀬（2020）が明らかにしたオンライン学習の枠組みを用いた。長瀬は、2020年の新型コロナウイルスの流行拡大に伴う学校休校の中で、オンライン学習を進める上での枠組みを検討した。

	一方		
同期	A 講義型 youtube ライブ ツイッター動画	B ビデオ視聴型 youtube（動画） NHKforS、テレビ配信	非同期
	C ゼミ・ミーティング・ ワークショップ型 zoom Gmeet	D 日記・ノート 課題提出型 メール LINE ロイロ Gclass	
	双方		

図1 2020年4月以降のオンライン学習における状況の利点と課題（長瀬2020を元に著者作成）

長瀬は、小中学校、高等学校を含むオンライン学習を同期、非同期、一方、双方とし、4つの枠組み捉え、問題点を考えた。

A 講義型

ライブで授業の様子を配信する方法である。デメリットとして、見逃したら見えないことやオンタイムで行うため、参加できない状況がある。動画配信のSNSを使うことで可能となる。

B ビデオ視聴型

あらかじめ作成した動画の配信やYouTubeや

NHK for School など既に配信されている動画コンテンツを使って学習者が試聴する方法である。デメリットとして、いつでも見える反面、教員側は、学習者の参加状況が不明であり、コミュニケーションを取ることは難しい。

C ゼミ・ミーティング・ワークショップ型

いわゆる「テレビ会議システムを用いた遠隔授業（文部科学省2020）」である。デメリットとしては、双方向のやり取りができる一方で、Aと同様に、オンタイムで参加できない状況が生まれることや、やり取りが学習者にとって負担になることが挙げられる。

D 日記・ノート・課題提出型

学習者が課題に取り組んだものにコメントなどを付けて評価をして返却する方法である。デメリットとしては、学習した内容を評価しあえる反面、同時進行ではないため、学習者に差が出る可能性がある。

また、実践を始める前の2021年2月7日にSNSのClubHouseにおいて、オンライン学習、特にオンデマンドによる配信について大学生数名に話を聞いたところ、

- ・レポートに対してフィードバックが欲しい。
 - ・教員の人が分からない。教員のメールアドレスにメールを送るのはハードルが高い。
 - ・課題について丁寧にコメントしてほしい。
 - ・学校現場について話をしてほしい。
 - ・ケーススタディを取り入れほしい。
- といった意見があった。

こうした意見を生かしながら、オンデマンド型講義は、「Bビデオ視聴型」に相当し、一方向で非同期の形式を取ることにした。ただし、課題提出型と重ねて行うことで、非同期ではあるが、双方のやり取りが可能となると考えた。

2. 3. 3 オンデマンド型講義での視点の明確

オンライン学習におけるオンデマンド型講義の枠組みをもとに、学生をケアする視点に立ちながら、講義における教育方法の視点を明確にすることにした。

視点1 テーマ設定に伴う学習活動の導入

生徒指導に対するイメージを豊かにし、学校現場に生かせる実践知を身につけることができるようにし、そのための授業づくり（講義計画）をすることを考えた。そこで、テーマに対する受講者の考えを豊かにするための学習活動を盛り込み、レポートの

課題に対して、自宅で一人でもできるように工夫した。

視点2 学習の意義や成果の明確化

教育実習を控えた学習者のニーズを考慮し、なぜ学ぶのか（意味）や学習することでどんなことを得ることができるか（成果）を第1回目に明確に指示することにした。また、ビデオ収録の際には、ゲストスピーカーとして現職の教員にも参加してもらい、生徒指導をテーマに学校現場の様子や課題について話をしてもらった。

視点3 学習環境への配慮

自宅で受ける学習者の情報環境も考慮し、試聴時間を短くし、その分文献や資料への調査に当てるなどし、自律的に学習が進められるように工夫した。学生は自宅で受けるため、学習内容の理解について他者と比較することができない。そうした状況から学習に対する不安も生まれるため、レポートには毎回コメントをつけることで、学習状況を伝えながら、アドバイスや励ましを行い、学習者のメンタルのケアに努めた。その際には、大学のe-learningでのレポート提出とコメント・評価機能を活用することにした。

2. 4 「生徒指導論」の実践について

2. 4. 1 日時、科目、対象者について

本実践は、京都女子大学2021年度前期「生徒指導論」（法定規程科目「教育の基礎的理解に関する科目（養護・中高一保健免許希望者）【必修】」）を対象とする。対象者は、発達教育学部教育学科の養護・福祉教育学専攻3回生51名であり、スクールソーシャルワーカーや社会福祉士を取得希望の学生もいる。

オムニバスとして10回を受け持ち、残りの5回は他の教員が担当する。そのため、本研究対象はこの10回の講義となる。最後の10回目は対面授業を考えたが、新型コロナウイルス感染拡大への懸念や受講者が看護実習前のため、自宅待機せざるを得ない状況であったため、Zoomを用いたテレビ会議システムを用いた遠隔授業に切り替えることとなった。

2. 4. 2 実施した講義内容について

10回の講義内容は以下の通りである。

教育方法の3つの視点を意識しながら、以下のような工夫に努めた。

①学習者のケア（内的状況を考慮した）の工夫

自作動画の視聴時間は30分程度とし、その動画をきっかけに、文献や資料を読んだり、調査する時間

表1 講義テーマと配信方式

	テーマ	方式	動画配信形式
第1回	人格形成と生徒指導	オンデマンド	自作・youtube
第2回	学校教育課程と生徒指導	オンデマンド	自作
第3回	学校における生徒指導の方法と体制	オンデマンド	自作
第4回	発達段階に応じた生徒指導	オンデマンド	自作
第5回	生徒指導上の課題と関係法令	オンデマンド	自作
第6回	非行と生徒指導	オンデマンド	自作
第7回	いじめ・不登校と生徒指導	オンデマンド	自作（ゲスト）
第8回	LGBTと生徒指導	オンデマンド	自作（ゲスト）
第9回	貧困問題・児童虐待と生徒指導	オンデマンド	自作・youtube
第10回	保護者・地域・教職員、関係諸機関の連携	テレビ電話	Zoom
第11回～15回は、他教員による講義			

を加えたりした。また、学生からの質疑応答に答えたり、レポートの解説の動画を入れたり、短い動画を組み合わせながら取り組むようにした。また法務省作成 YouTube での配信動画の視聴を促すこともした。また、第1回では、オンデマンドの学び方や「生徒指導のイメージを多様にする」という目標、学習を終えての成果についての説明を行なった。

本授業での学び方

- (1) ビデオの中の問いに答える。
 - (2) 教育実践力を身につけるためのフィールドワークをする。
 - (3) 文献を読む。
- ※ (1)～(3)をレポート(A4一枚)にまとめる。

・ビデオは20分～40分程度を予定
 ・フィールドワーク、文献購読、レポート作成60分程度
 ※授業レポートと中間レポートで評価(+A先生の授業)
 第10回は対面を考えています。

図2 第1回の講義で、学習者に提示した「本授業での学び方」

②学習者のニーズに応じた動画作成の工夫

学生の興味・関心が高かったいじめや不登校についての内容や保健室での対応がより求められるLGBTなどの内容について、小学校教員や養護教諭をゲストに招いて対談形式の形で動画収録をした。

③学習者の思考を促す動画作成の工夫

ビデオの途中で「一旦ここで止めて、考えを書きましょう」といった促しを入れることで、一人で学んでも考えを深めたり、見逃しや聞き逃しがないようにしたりした。

④レポート課題設定の工夫

レポート課題の中に、一人でもできる文献や資料の読解や調査を行う活動を取り入れた。

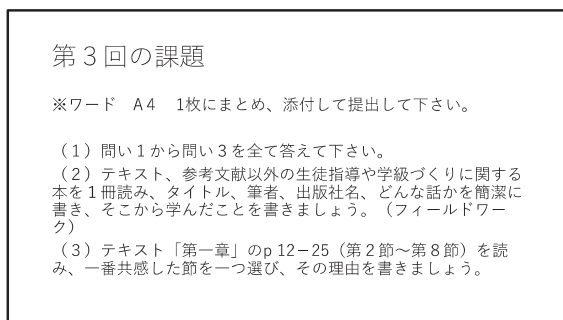


図3 「生徒指導や学級づくりに関する本を1冊読み、紹介する」を課題とした。

⑤レポートの作成の工夫

毎回の動画を視聴後、3、4問ほどのレポート課題を出し、A4サイズ1枚の中で、考えを書いて提出させた。基本的に自宅で、一人で学習をしているので、レポートに毎回コメントをつけることで学習状況が確認できるようにした。なお、評価は毎回のレポートと、中間レポートで評価を行った。また、不安なことや質問があれば、メールで質問などを随時受け付けた。

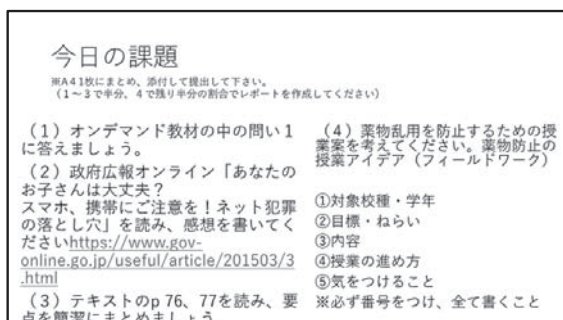


図4 感想を書くだけでなく、テキストの要約や授業アイデアを考えるなど回ごとで違いを出すようにした。

3 調査結果

3.1 アンケートの基本概要

第9回までの講義を終えた後の2021年7月5日から7月27日までに受講者にアンケートを実施した。対象者は受講した学生51名であり、アンケートは50名が回答した。

アンケートでは

- (1) 生徒指導論を受講する以前の「生徒指導」のイメージはどのようなものでしたか。
- (2) 生徒指導論を受けて、「生徒指導論」のイメージは変容しましたか。
- (3) 生徒指導論を受講した後で、今現在、あなたがもつ「生徒指導論」のイメージはどのようなものですか。教えてください。イメージが変容したのであれば、その理由やきっかけも明記してください。

- (4) 生徒指導論で「生徒指導」について印象が残っている、または、見識が深まったと考える講義を1つ選んでください。
- (5) (4)について、なぜ、その回が印象に残り、見識が深まったのですか。その理由を教えてください。
- (6) この講義は、大学からの要請も受け、全てオンデマンドでの授業となりました(10回のみZoomによるオンライン)。オンデマンド配信でよかった点をお書きください。
- (7) オンデマンド配信でよくなかった、改善すると良い点があれば教えてください。
- (8) オンデマンド配信の授業の工夫でよかったところは次のうち、どれでしたか。複数に回答していただいて構いません。
- (9) (8)についてなぜ、オンデマンド配信の授業の工夫でよかったと思ったのか、理由を書いてください。
- (10) 「生徒指導論」は今回、対面ではなくオンデマンドになりました。オンデマンドでも「生徒指導」について十分に学修することができましたか。
- (11) その理由を教えてください。
- (12) 「生徒指導論」には、どの授業スタイルが一番良いと考えますか。について回答を得た。

3.2 アンケートの結果

3.2.1 「生徒指導」のイメージの変容について(アンケート調査(1)(2)(3))

生徒指導論を受講する前は、「問題を抱える生徒を対象に、叱る」「頭髪検査や校則を守っていない生徒への指導を行うこと」、「怒られる、怖いイメージがありました」、といったものが強く、「養護教諭に身近な不登校やいじめの問題、教育相談等の内容よりも、学校全体に関する進路関係の授業だと思っていた」、「児童生徒の悩みや困りごとを聴き、適切なアドバイスをする」といったイメージを持っていた学生は少なかった。

その上で、講義を通じて、生徒指導のイメージの変容したかについては「はい」が82%、「どちらかといえば、はい」が18%であった。「生徒指導には、担任や養護教諭、SSWなど役職によって様々な指導方法があるイメージに変わりました。私は、一般的な担任等が行う生徒指導しかイメージできなかったが、生徒指導論という授業を通して、「生徒指導」は私が思っていたよりも、かなり広く捉えたものだと感じたからです。」「(「はい」と回答)、「生徒一人一人に行うもの。今までは、問題や悩みを抱える子どもをメインに行うものだと思っていた。」「(「どち

表2 「生徒指導論」を受講する以前の「生徒指導」のイメージ（自由記述、複数回答あり）

講義前の生徒指導のイメージ	
問題行動への対処	12
怖い	12
規律・管理	10
叱る	7
進路指導	5
厳しい	4
生き方を教える	2
アドバイス	1
個人面談	1
事前注意	1
	55

らかといえ、はい」と回答)といった意見があったように、学生の持つ生徒指導へのイメージが多様になった。

3. 2. 2 生徒指導論で印象に残った講義 (アンケート調査(4)(5))

生徒指導論で「生徒指導」について印象が残っている、または、見識が深まったと考える講義については、第7、8回が多く、「いじめ・不登校による生徒指導については、私が一番知りたかった部分であり、実際に働いていらっしゃる先生のお声が聞けたことが印象的に残っています。(第7回を選択)」、「ゲストスピーカーの方が実際に来てくださって生の声を聞けたから。また、子どもと接するとき気をつけていることが印象に残ったから。(第8回を選択)」と言った意見があった。

この2つの回は現職教員をゲストスピーカーに招いたことが要因として挙げられるが、「自分の卒論のテーマとして貧困問題を取り上げているので生徒指導の観点から貧困問題について考えることができたのは私にとっては大きな一歩になった。(第9回を選択)」のように、受講者の興味関心が高いテーマであったことも関係すると考えられる。

3. 2. 3 オンデマンド配信の良さとの課題 (アンケート調査(6)(7))

アンケートの質問(6)(7)では、自由記述をした中で、共通する内容を分類した。複数の内容について記述している受講者も多かった。オンデマンドでの配信の良さを受講者は、表3のようにあげている。

表3 オンデマンド配信でよかった点（複数回答、自由記述から内容抜粋）

オンデマンドでよかった点	人
繰り返し視聴することができる	28
好きな時間に視聴できる	24
視聴の一時停止が可能	6
考える時間が増えた	5
教科書をしっかり読める	3
自宅での受講が可能	2

一方で、改善点としては、次のような点をあげている。

表4 オンデマンドで改善して欲しい点（複数回答、自由記述から内容抜粋）

改善してほしい点	人
音声の不具合の改善	10
仲間との関わりが不足	8
直接話を聞きたかった	7
資料を配布してほしい	3
課題がしんどい	2
動画の再生速度を早くして欲しい	2
学習内容や知識の内容が少ない	1
学校現場のより具体的な話を聞きたい	1
緊張感がなくモチベーションが低下する	1
ゲストの前に質問を集めて欲しい	1

導入の音楽の音が大きすぎるといった技術的な改善点の指摘に加え、「フィールドワークをほかの学生としてみたかったです」「他の学生の意見を取り入れて考え方を広げること」といった「仲間との関わり」が不十分であったという指摘や「先生に聞きたいことがあった時にどうしてもラグが発生してしまうことです」「双方向ではないので疑問点をすぐに聞くことができないところですよ」というように、「直接話を聞くことができない」という問題を指摘する意見があった。

3. 2. 4 オンデマンド配信への工夫についての評価（アンケート調査(8)(9)）

講義を始める前に設定した工夫についての5つの項目を設定し、よかった点を複数回答で選ぶようにした。

「長時間画面の前に座り、講義を受けることが続くことややはりストレスや疲労がたまるため、短時間の

動画にまとめてくださり、ありがたかった。フィードバックのない授業が多く、自分の書いている内容が授業に精通しているのかどうか分からないことが多かったため、一言でもコメントを返してもらえることは、気持ちが軽くなり、安心して課題に取り組むことができる要素となった。Zoomではなく、先生が要点を絞ってのゲストスピーカーの話聞くことは、内容が頭の中に入りやすく、聞きやすかった」と試聴時間の工夫だけでなく、フィードバックコメントが励みになったと答える受講者が多かった。

表5 オンデマンド型講義の工夫でよかったところ（複数回答あり）

授業の工夫でよかったところ	人
時間の工夫	37
レスポンスの工夫	37
ゲストスピーカーの工夫	32
課題提出の工夫	25
受講者への対応の工夫	22

3. 2. 5 オンデマンド型講義の是非について (アンケート調査(10)~(12))

オンデマンドでも生徒指導について十分に学修することができたかについては、94%の受講者はできたと回答していたが、「オンデマンドでも、十分に教科書や課題で、学ぶことができたから。しかし、対面の方が先生と話したり、先生の熱意をもっと感じられたのではないかと思う」と言った意見もあった。

また、「生徒指導論」には、どの授業スタイルが一番良いと考えるかについては、オンデマンド配信と対面方式で意見が分かれた。

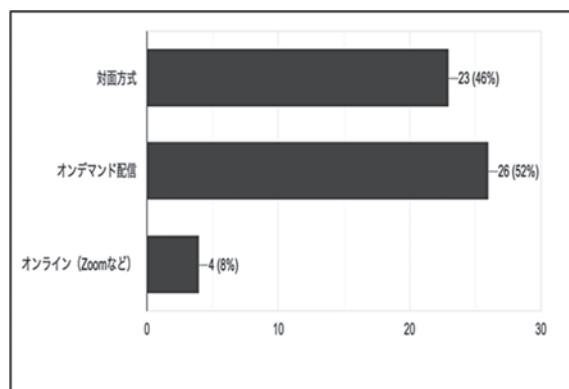


図5 「生徒指導論」ではどの授業スタイルが適しているか（複数回答あり）

「問いに対する考えを深めるには人との意見交換も必要だと思いますが、自分の考えを深め、文字にするという作業が欠かせないと思いました。その中で、問いに対して考える時間というのは人それぞれであり、多くの時間で問いに取り組んだ私にとっては、自分のペースで問題と向き合うことが出来たからです」とオンデマンドの良さを述べる意見に対して、「オンデマンドはひとりでじっくりと考えることができるけれど、対面で他の人の意見や反応を参考にしながら考えることで、学べることもあると思ったからです」と対面の良さを述べる意見があり、テレビ電話を利用したオンライン学習への回答は少なかった。

4 考察

成果として、オンデマンド型が元々持っている課題を明らかにした上で、学習者のニーズを考慮した学習の意味や成果を学習者に明確に表すこと、そのために、具体的にどのような過程で学習をしていけば良いかの道筋をレポート課題で示すことで、学習者はオンデマンド型の講義形式でも自律的に学習に取り組むことが可能であると考えられる。また、学習者の学習環境に配慮し、視聴時間の工夫や毎回のレポートにコメントをつけるなど、フィードバックを豊かにすることで、教員と受講者の双方向の学びにつなげることができた。学生から「レポートのコメントも楽しみに読んでいました。他の授業ではコメントがほぼなく、褒められることがすくなかったのでうれしかったです。自分も将来子どもたちを素直に褒めて、子どもたちの気持ちが少しでも晴れるような声掛けをしながら生徒指導をしたいと思いました。」とアンケートの最後にメッセージをもらうことがあった。「コメントをもらうことの喜び」の経験から「自分が教員になったら声をかけていきたい」と考えたように、ケアする能力を「他者からケアされる経験を通じて育まれる」（ノディングス、柏木）ことができた学生も見受けられた。

一方、アンケートの調査結果でも明らかだったように、同じ受講生との関わり、つまり、学生と学生の意見の交流をいかに生み出すかが課題となった。オンデマンド型講義には、自分一人で学習を進めていくことができる強みが一方で、「フィールドワークをほかの学生としてみたかったです」「他の学生の意見を取り入れて考え方を広げること」という意見があったように、学生同士が学び合うための工夫が必要になる。そのため、テレビ会議システムを用いた遠隔授業を併用することも考えられる。ただし、アンケート調査でも明らかになったように、テレビ会議システムの利用だけでは、「問いに対して考え

る時間というのは人それぞれであり、多くの時間で問いに取り組んだ私にとっては、自分のペースで問題と向き合うことが出来た」と受講生が述べたようにオンデマンド型のよさが逆に消えてしまうことがありうる。そのため、テレビ会議のシステムをどのタイミングで活用するかを検討する必要がある。その上で、例えば、レポートの課題設定の中で、仲間同士の交流を課題として取り組むなど工夫が必要である。また、今後もケアリングの視点に立つのであれば、講義の方法のみならず、講義内容もケアリングについて考える場になるような工夫が求められる。今回の調査結果をもとにしながら来年以降の実践に生かしていきたい。

参考文献

- 北九州市企画調整局企画課（2021）「コロナ禍における大学生へのメンタルヘルスに関する調査結果について」
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000941396.pdf>（2021年12月26日閲覧）
- 柏木智子（2020）『子どもの貧困と「ケアする学校づくり」カリキュラム・学習環境・地域との連携から考える』明石書店、p. 68
- 柏木智子（2021）「『個別最適な学び』とケア」『授業づくりネットワーク No. 40 個別最適な学び』学事出版、通巻348号、pp. 64-69
- ネル・ノディングス（2007）「学校におけるケアの挑戦—もう一つの教育を求めて」（佐藤学監訳）ゆみ出版 柏木（2021）は、この中で、p. 47, p. 55, pp. 68-69をまとめている。
- 西田絵美（2015）「メイヤロフのケアリング論の構造と本質」佛教大学大学院紀要 教育学研究科篇第43号、pp. 35-51
- 西田絵美（2018）「看護における〈ケアリング〉の基底原理への視座：〈ケアリング〉とは何か」日本看護倫理学会誌 VOL. 10 NO. 1、pp. 8-15
- 宮崎久美子（2021）「養護教諭養成教育におけるケアリングの具現化：養護実習記録簿のケアリング概念に焦点を当てた質的分析」安田女子大学紀要（49）、pp. 117-124
- 内田豊海・松崎康弘（2021）「短大卒業生に対するリカレント教育に関する研究—小学校教諭の現状分析を通して」南九州地域科学研究所報37号 pp. 55-61
- 川面なほ・今橋裕「ラーニングコモンズにおけるオンライン学習支援の試み」高等教育フォーラム11、pp. 59-65
- 文部科学省（2020）「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」
- 文部科学省（2020）「今後の国立大学法人等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議（第5回）資料2-1」（朝日新聞2020年8月24日（月）朝刊19面より引用）
- 許挺傑・林満理子（2020）「オンライン授業に対する学生評価アンケートについての一考察—テキストマイニングの手法を用いて—」大分県立芸術文化短期大学研究紀要 第58巻、pp. 157-178
- 西垣順子（2021）「『遠隔授業環境における学生の学び』に関する教員アンケート結果報告」大阪市立大学「大学教育」第18巻 第2号、pp. 16-19
- 長瀬拓也（2020）「公立学校でもできる！オンライン学習を進める学校の共通項 岐阜県中津川市立加子母小学校の取り組みに学ぶ」
<https://www.meijitoshu.co.jp/eduzine/opinion/?id=20200278>（2021年8月16日確認）
- 西之園晴夫（2020）「コロナウイルス禍の後の教育のパラダイムと教育実践研究」日本教育実践学会第23回研究大会特別講演スライド
http://www.u-manabi.org/files/JSSEP23_1107_Nishinosono.pdf（2021年8月16日確認）
- 西之園晴夫、宮田仁、望月紫帆（2006）「教育実践の研究方法としての教育技術学と組織シンボリズム」教育実践研究 第8巻第1号 pp. 23-34
- 西之園晴夫（2004）「柔軟な授業をつくる」『教育の方法と技術』ミネルヴァ社、pp. 135-151

謝辞

『生徒指導論』の講義計画、授業づくりにあたって、京都女子大学の村井尚子先生、花園大学の井上明美先生にはご助言やサポートをしていただき、感謝しています。また、京都女子大学教務課、情報システムセンター、学生生活センターの皆様にはオンデマンド配信のため、実際に学生に関わることができない中、サポートしていただきました。この場を通してお礼申し上げます。また、ゲストスピーカーの松森靖行先生、江藤真代先生、谷口陽一先生、そして、一緒に授業をつくることができた受講生の皆さんに感謝いたします。